



Short-Term Fertilizer Outlook 2018 – 2019

Production & International Trade
and Agriculture Services
International Fertilizer Association (IFA)

IFA Strategic Forum

13-14 November 2018
Beijing (China)



このレポートは、IFA（国際肥料工業協会）が2018年11月13～14日中国北京に開催されたIFA肥料フォーラムにおいて発表した報告を纏めたものである。執筆者はIFAの専門家グループである。

原文は英語で、下記のHPから直接にダウンロードすることができる。
<https://api.ifastat.org/reports/download/12539>

IFAの肥料展望2018～2019

当該公開レポートは2018年11月中国北京に開催されたIFA肥料フォーラムの期間中にIFA専属の農業グループおよび生産＆国際貿易サービスグループの専門家が執筆したものである。このレポートはIFA肥料フォーラムが終了した後、会員たちに配った「世界農業と肥料需給の短期的展望、2017/18～2019/20」と「世界の肥料供給と貿易、2018～2019」の2冊会員専用報告書から抜粋したものである。

レポート執筆者：

生産＆国際貿易サービスグループ

Michel Prud'homme : シニアディレクター

José de Sousa : コーディネーター、PIT統計プログラマー兼窒素製品アナリスト

Virginie Couturier : りん酸塩製品市場アナリスト

Olivier Rousseau : 加里製品とNPK肥料市場アナリスト

Sylvie Marcel-Monnier : アシスタント

農業サービスグループ

Patrick Heffer : シニアディレクター

Armelle Gruère : 市場と経済アナリスト

Samy Beltaief : 政策アナリスト

免責声明

国際肥料工業協会（IFA）が発行したレポートと資料は正確な情報とデータをもとに作成されよう努めている。ただし、IFAとその会員はレポートと資料に記載されている情報とデータを一切保証するものではなく、そのレポートと資料により引き起こすいかなる結果に対しても一切責任を負えない。

経済と政策の背景

世界経済については2018年上半年期の成長速度が見通しより下回るが、2018～2019年の世界経済成長速度が依然安定していると予測される。ただし、過去6か月に世界経済の下振れ

危険性が増して、更なる成長速度の増加に対する期待が外された。IMF（国際通貨基金）の予測では、新興市場と発展途上国経済圏の牽引により、2018～2019年の世界経済成長率が3.7%に達する見通しであるが、2018年に先進国経済成長速度が停滞期に入り、2019年に下落する可能性さえある。

原油について、価格が上昇傾向ではあるものの、2018年11月には約60ドル／バレル（ブレント原油）まで下がった。

米ドルに対していくつかの国通貨の切り下げ幅が正常範囲を超えた。例えば、2018年初めからアルゼンチンペソとトルコリラがそれぞれ50%と40%切り下げられた。

2018年下半期に化学肥料の需給に影響を及ぼす農業政策と環境政策の変化がほとんどみられない。ただし、世界範囲内に環境保護と持続可能な発展目標を実現するために化学肥料の使用に対する政策が一段と厳しくなる見通しである。

世界農業

良い天候に恵まれて、2016/2017 年度は記録的な大豊作であった。2017/2018 年度の世界穀物生産量が若干下がったが、収穫量が減少した原因は粗粒食糧の減収で、小麦とコメの生産量が新記録である。世界の穀物消費量が継続的に増加し、5 年間の蓄積もあり、世界の穀物在庫量が安定している。2018/2019 年度の世界穀物生産量がやや減少する見込みである。予測では粗粒食糧の生産量が増加し、コメの生産量が安定して、小麦生産量の減少により穀物生産量がやや減少するだろう。

食糧需要が増加し続いている、穀物在庫量が前年度よりさらに減少見込みである。ただし、2018/2019 年度の穀物生産量が予期より増えるため、価格を低下させる圧力になっている。2019/2020 年度の初步的な予測では、北半球の小麦栽培面積が拡大する見通しである。大豆については生産量の増加と 2018/2019 年度在庫量の増加、2018 年 7 月以降中国がアメリカから輸出される大豆に 25% 輸入関税をかけることにより、2017 年末から大豆の価格が大きく下がった。中国の輸入関税が 2019 年アメリカの大豆栽培に悪影響、トウモロコシ栽培に良い影響を与える。また、ブラジルとアルゼンチンの農家に大豆栽培面積の拡大をさせる動力にもなる。

2018/2019 年度生産量減少の下支えにより、菜種の価格が上昇傾向にある。初步的な予測では、栽培シーズ中の悪天候により 2019/2020 年度の油菜栽培面積が減少する見込みである。2018 年パーム油の生産量増加と需要減少の影響で、パーム油価格が弱みを続いている。2018 年に砂糖生産量が消費量を超え、在庫が増え続けているため、砂糖価格も大幅に下落した。綿の市況が良くなっている。生産量の減少により 2018 年綿の価格が上昇し、中国政府が備蓄綿の放出もあり、綿の需要も活発している。

肥料需要

2015/2016 年度の停滞を経て、世界の肥料需要がゆっくり回復し、ある程度の増加がみら

れた。2016/2017 年度の需要増加率が 1.2%、需要量が 1.846 億トンに達した。2017/2018 年度の増加率が 1.3%、需要量が 1.870 億トンと見込まれる。

2018/2019 年度の増加率がやや緩やかになる (+0.7%、需要量 1.883 億トン) 見込みである。これは次のいくつかの要素によるものである。いくつかの国（例えばオーストラリア東部と北欧、西欧）の悪天候、通貨安による大規模な化学肥料消費地（例えばトルコ、インドとパキスタン）の投資収益に与える影響、地政学的な緊張（例えばイランへの制裁）、先進国と中国の肥料利用効率の持続的な向上などである。

中期的な傾向と一致して、多くの地域が施肥バランスの必要性への重視と窒素、リン酸の環境への流失が減少することにより、2018/2019 年度の窒素 (+0.3%)、りん酸 (+0.8%) の増加率がさらに下がり、加里 (+1.8%) の増加だけが目立つ。

各地域では、昨年同期に比べ、年間の増加率ではアフリカ (+3.9%) と東欧中央アジア (EECA 地域) (+3.7%) が最大で、販売量ではラテンアメリカ (60 万トン増) の増加が最大である。

世界の肥料需要量（100 万トン養分）

年度	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	合計
2015/2016	104.0	43.5	34.9	182.4
2016/2017	104.7	44.2	35.7	184.6
2017/2018 (e)	105.6	45.1	36.3	187.0
増加率	+0.8%	+2.0%	+1.7%	+1.3%
2018/2019 (f)	105.9	45.4	36.9	188.3
増加率	+0.3%	+0.8%	+1.8%	+0.7%
2019/2020 (f)	107.4	46.3	37.7	191.4
増加率	+1.4%	+1.8%	+2.1%	+1.6%

2019/2020 年度の世界化学肥料需給量が大幅増加し、その増加率が中期予測値より高い。これは食糧価格の上昇傾向および穀物栽培面積の拡大（大豆が縮小するが）によるものである。この増加傾向は肥料利用効率の向上と植物養分のリサイクル量の増加により幾分相殺されるが、それでも増加が高止まりである。世界の肥料需要量が 1.6%増加し、1.914 億トンに達する見込みである。

ブラジル、インドとインドネシアの旺盛な需要に引っ張られ、世界の加里需要量の増加率が 2.1%となる見通しである。インドとブラジルもりん酸肥料の需要増加 (+1.8%) の主な要因である。一方、窒素肥料の需要増 (+1.4%) は南アジア、ラテンアメリカ、東欧と中央アジア (EECA 地域)、北米など多くの国が担っていると予想される。

アフリカは肥料需要増加率の最も高い地域 (+4.4%) で、次いで東欧と中央アジア (EECA 地域) (+3.5%)、ラテンアメリカ (+3.3%) と南アジア (+3.1%) である。また、

肥料養分の増加量では、南アジアが最大 (+110 万トン) で、次いでラテンアメリカ (+80 万トン) である。

肥料供給

2018 年、化学肥料に対する需要が低迷している。貿易摩擦の緊張局面といくつかの化学肥料の大消費国の通貨下落、化学肥料市況の不振、農作物価格の停滞およびエネルギー価格の上昇などの影響もある。これらの要因は化学肥料の生産と消費に影を落としている。

2018 年を通して窒素肥料原料とする石炭と天然ガスの価格が上昇している。エネルギー価格の上昇は旺盛なエネルギー需要と一部の供給制限により押上られている。また、一部の国が炭素税または温室効果ガスの取引制度 (ETS) を強化して、温室効果ガスの排出を減らす政策を打ち出している。

2018 年の国際化学肥料市場が低迷しているが、主要化学肥料原料 (アンモニア、リン鉱石、加里鉱石) の生産量が新記録を立てた。尿素と MAP の生産量も増加したが、DAP と重過リン酸石灰の生産量が減少した。

2018 年の化学肥料 (純養分換算) の販売量が約 2.51 億トン、前年度より 1.2% 増と予測される。そのうち、輸出量が 2% 増加し、5900 万トンになり、国内流通量が若干上昇し (+1%)、1.92 億となる。

すべての養分の生産能力が増加し、約 450 万トンの純養分の生産能力増加と 720 万トン有効生産能力の増加をもたらす。

2019 年の見通し

2019 年世界の化学肥料需要が上昇し、約 1.4% の増加が見込まれる。2019 年に用途を区別せず、化学肥料 (純養分換算) 販売量が 1.2% 増、2.54 億トンになる見通しである。

2019 年 3 大養分とも新たな生産プラントの完成と稼働があり、特に窒素肥料と加里肥料には大きなプロジェクトの完成が計画されている。2018~2019 年全世界約 60 ヶ所の新工場が稼働し、約 1,000 万トン (アンモニア、りん酸、加里合計) の生産能力増加が見込まれる。

窒素の展望

ロシア、アフリカ、アメリカと東南アジアの生産量増加の影響を受け、2018 年世界のアンモニア生産量が 1.5% 増、1.75 億トン NH₃ になる見込みである。ただし、中国では環境規制の強化、原料供給不足、石炭価格の上昇と尿素輸出量の減少により、アンモニア生産量が 2017 年より 4% 減少した。

2018 年のアンモニア貿易が活発し、モロッコ、インド、中国、メキシコとウクライナの輸入量が増加し、アメリカの輸入量が減少したが、アンモニアの国際貿易量が 5% 増加して 1,970 万トンに達する見込みである。なお、海運によるアンモニアの貿易量が 1,610 万トン、

アンモニア国際貿易量の 82%に占める。

2017 年世界アンモニア生産能力が N 換算で 1.84 億トンであったが、2019 年に 1.88 億トンまで増加する見通しである。2018~2019 年に東欧中央アジア地域、インド、インドネシア、メキシコとアメリカに多くのアンモニアプラントが完成する。中国ではこの短期間にアンモニア生産能力がほとんど変動しないだろう。

2018 年の世界窒素肥料需給バランスから見ると、供給量の大幅増加に対して需要の増加が限られるため、潜在的過剰量が大幅に増える。2019 年には世界の窒素肥料需給のアンバランスがやや縮まり、潜在的過剰が 1,400 万トン N である。

この窒素需給のアンバランスは 2019 年潜在的供給量の 9%を占め、高コストのメーカーと長期的原料不足のメーカーにとっては圧力になるだろう。

世界の窒素肥料供給／需要量（100 万トン N）

	2017 年	2018 年	2019 年
供給量	154.8	158.3	159.9
需要量	143.0	144.1	145.8
バランス	11.8	14.2	14.1

尿素の展望

2018 年世界の尿素生産量 1.69 億トン、設備の平均稼働率が 79%。世界生産量の約 30% を占める中国を除き、世界の尿素生産量が 4%増加し、1.20 億トンに達する。

尿素の国内流通量が世界販売量の 72%を占め、1.22 億トンと安定しているが、輸出が不振で、国際貿易量が 1%減の 4,770 万トンである。

2018 年尿素貿易の主な特徴は中国尿素輸出量の大幅減少である。2018 年中国尿素輸出量が 200 万トン、世界輸出量の 4%しかない。2017 年には 10%、ピークの 2015 年には世界輸出量の 28%をも占めた。

2018 年世界の尿素生産能力が 2.14 億トン、2019 年には 2.20 億トン、2017~2019 年の 2 年間で 3%も増加する。600 万トンの純生産能力の増加は主に 2019 年に出現する。インド、東欧中央アジア地域、ナイジェリアとメキシコに大きな尿素生産能力の増加が見られる。

2018 年世界尿素供給量（有効生産能力）が 1.88 億トン、2019 年には 1.89 億トン。2018 年世界全体の尿素需要量が 1.69 億トンと安定して、2019 年には適度に増加し、1.71 億トンとなる見通しである。

2018 年には完成した生産設備の稼働率上昇および 2019 年に新たに完成する生産設備の稼働により 2019 年の尿素供給量が若干増加 (+0.6%) するが、需要量の増加率が 2018 年より 1%を超える見通しである。

したがって、2018 年と 2019 年の潜在的供給過剰量が 1,800 万トンに保ち、尿素供給量

の約 10%に相当する。

アフリカと東欧中央アジア地域の潜在的過剰が拡大し、ラテンアメリカと中欧の潜在的不足が増える。世界の尿素貿易量が 1%減少し、4,520 万トンになる見通しである。

世界の尿素供給量／需要量（100万トン実物）

	2017年	2018年	2019年
供給量	185.0	188.1	189.2
需要量	168.6	169.1	170.9
バランス	16.4	19.0	18.3

リン酸塩の展望

2018 年世界リン酸塩市場の特徴はリン鉱石の需要が旺盛であるが、それを原料とするリン酸肥料（MAP、DAP、重過リン酸石灰）の生産量と国内流通量がやや弱っている。

MAP と DAP 生産量の減少を受け、2018 年世界のりん酸肥料（MAP、DAP、重過リン酸石灰）全体の生産量がやや落ちて、3,390 万トン P₂O₅（実物製品量 7,070 万トン）に減少した。

従って、リン酸肥料の輸出量の増加 (+4%) があるが、国内流通量の減少 (-5%) により、2018年世界のりん酸肥料販売量が下落し、特にアメリカと中国の国内流通量が大きく減少した。

2018～2019年、世界のりん酸生産能力が2017年より2.5%増加し、2019年に6,140万トンP₂O₅に達すると予測される。

2018～2019年、モロッコ、サウジアラビアおよびエジプトのリン酸肥料生産能力が増加し、ロシア、カザフスタン、ブラジル、インドとトルコも若干の増加がみられる。2018年と2019年中国のリン酸肥料生産能力の変動がほとんどないと予測される。

2018年と2019年世界のりん酸肥料生産能力がそれぞれ4,860万トンP₂O₅と5,030万トンP₂O₅。新たに完成する大型リン酸肥料工場は製品を切り替える機動力があるが、生産能力の増加分にはDAPが78%を占める見込みである。

2019年世界のりん酸供給量が2017年より2%増の4,920万トンP₂O₅に達する一方、2019年りん酸全体の需要量が4,720万トンP₂O₅であると見込まれる。

2017～2019年の間にリン酸の潜在的需給アンバランスがやや緩和される見通しである。

世界のりん酸供給量／需要量（100万トンP₂O₅）

	2017年	2018年	2019年
供給量	48.3	48.6	49.2
需要量	45.7	46.4	47.2
バランス	2.6	2.2	2.0

アフリカと西アジア地域では潜在的過剰量が増大し、逆に北米地域の潜在的過剰量が減少する。また、南アジアとラテンアメリカでは潜在的P₂O₅不足量が増大するだろう。

DAPの国際貿易量は南アジアと東南アジアの輸入増加により、1~2%増え、1,800~1,900万トンに達する見込みである。

加里の展望

旺盛な加里養分需要の下支えもあり、2018年世界加里製品の販売量が前年度より2%増加し、7,200万トンの塩化加里に相当するだろう。

塩化加里の国内流通量が3%増の1,500万トン、輸出量が増減なしの5,400万トンである。東南アジア、ブラジルとアフリカでは塩化加里輸入量が増えるが、中国とインドの塩化加里輸入量が安定して、アメリカの輸入量が減る見込みである。

2017年の世界加里生産能力が5,970万トンK₂O、2019年には6,100万トンに増加する見通しである。カナダ、ロシア、中国とポリビアが新の生産能力の増加が見込まれている。

一方、2019年世界の加里供給量が2017年より10%増の5,100万トンK₂O、需要が4%増の4,330万トンK₂Oと予測される。

したがって、2018年と2019年には加里供給過剰がさらに拡大する。しかし、技術および商業的見地から2018年の加里供給が幾分緊迫しているだろう。

各地域から見れば、カナダとロシアでは潜在的過剰が拡大し、ラテンアメリカ、南アジア、東アジアおよびアフリカ地域では潜在的供給不足が増大するだろう。

また、東欧中央アジア地域の新しい加里開発プロジェクトは輸出向けのものである。近い将来、世界加里市場は依然供給が先に進み、加里の潜在的需要増加は多分尿素と同じ、工業部門の需要増によるものだろう。

2019年世界の塩化加里貿易量が約2%増加し、5,500万トンに達する見通しである。

世界の加里供給量／需要量（百万トンK₂O）

	2017年	2018年	2019年
供給量	46.3	48.8	51.1
需要量	41.5	42.5	43.3
バランス	4.8	6.3	7.8



CONTACT

INTERNATIONAL FERTILIZER ASSOCIATION



49 avenue d'Iéna,
75116 Paris, France



info@fertilizer.org
www.fertilizer.org



T: +33 1 53 93 05 00
F: +33 1 53 93 05 45



international-fertilizer-association-ifa



@fertilizernews



IFAfertilizers